

仲 悠希 「年代による恋愛ソングの歌詞の変化」

要旨

本論文は、著者が現代の邦楽の中で「歌詞」の重要性が高まっているように感じ、中でも共感や感動を生みやすい恋愛ソングの「歌詞」について、年代における流行や差異はあるのかを調査したものである。

調査をするにあたり対象楽曲の選定を行った。apple music が公開している「1990年代 邦楽ラブソング ベスト」「2000年代 邦楽ラブソング ベスト」「2010年代 邦楽ラブソング ベスト」を対象とし、全体を KH Coder による簡易分析と各年代の代表曲の個別分析を行った。

KH Coder による抽出語リストによる頻出単語を年代ごとに調査しその特徴を調査した後、コーディング・クロス集計によるより具体的な調査を行った。抽出語リストによる分析では、年代ごとの大きな差異は見受けられなかったが、1990年代にネガティブな印象を受ける単語が多く表れたことから1990年代は2000年以降に比べネガティブな内容の曲が多いのではないかと仮説を立て、調査を行った。

その後の個別分析では、タイアップの有無や一人称の有無と歌詞の内容について詳しく分析し、年代ごとの変化を調査した。1990年代ではほぼすべての楽曲がタイアップとして制作され、主にドラマや映画の主題歌として人気を博した楽曲が多かったが、年代が進むにつれ SNS や音楽配信サービスなどで人気となったタイアップでない楽曲も見られるようになった。また、歌詞内容に関しては、一人称二人称の変化が見られ1990年代では一人称二人称が登場しない楽曲が多く登場し、性別が分からないような曲や特定の誰かと誰かの恋愛について描かれていないものがみられたが、こちらも年代が進むにつれ一人称二人称が多く登場するようになった。また、男性のアーティストの楽曲も年代が進むにつれ多く表れ、一人称が男性であることが多くなった。

このような違いは、テレビドラマやテレビコマーシャルなどテレビが主なメディアであった1990年代から2000年代以降インターネットの登場によってテレビ以外のメディアが登場したことにより音楽を聴くハードルが下がったことでより共感を得られる音楽をユーザーが自ら聞くことができるようになったことによる変化ではないかと結論付けた。